

教 育 研 究 業 績 書

令和 5 年 5 月 1 日

氏名 植木 明子

研究分野	研究内容のキーワード
介護福祉	介護福祉要請・認知症・介護予防・介護福祉教育

教育上の能力に関する事項

事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例		
2. 作成した教科書、教材		
3. 教育上の能力に関する大学等の評価		
4. 実務の経験を有する者についての特記事項	1986年～ 1988年～ 1990年～ 1992年～2000年 2019年～2021年 2022年～現在	日本赤十字社長崎原爆病院混合外科病棟勤務、 日本赤十字社長崎原爆病院内科外来勤務 青年海外協力隊 フィジー共和国へ看護隊員として2年派遣 日本赤十字社長崎原爆病院 内科外来、産婦人科病棟、小児科外来、混合外科病棟にて勤務。 社会福祉法人神楽会 非常勤看護師
5. その他		

職務上の実績に関する事項

事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許	2000年7月18日 2001年3月11日 2004年2月14日 2004年7月4日 2008年3月31日 2008年11月17日 2011年12月1日 2012年9月 1 日 2013年8月2日 2016年4月1日 2017年9月1日 2018年9月1日	ホームヘルパー養成研修2級課程修了 介護支援専門員取得 レクリエーション・インストラクター資格取得 福祉住環境コーディネイター2級 介護教員講習会修了 福祉用具プランナー修了 アロマセラピーインストラクター 医療的ケア教員講習会修了 バリデーションワーカー修了 認知症ケア専門士認定 シェーフITTER認定 アロマハンドセラピスト
2. 特許等		
3. 実務の経験を有する者についての特記事項	2005年～2015年 2016年～2018年 2017年～2018年 2020年～現在	介護技術講習会 指導者として講習会実施 ユークャン実務者研修 医療的ケア演習担当 長崎女子高等学校 初任者研修 演習担当 介護労働安定センター・喀痰吸引演習・講義
4. その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
1. 老人性痴呆に対して、朗読のもたらす効果について	単著	2003年3月	長崎女子短期大学紀要 27	1. 老人性痴呆に対して、朗読のもたらす効果について、グループホームに入所する9名の高齢者に朗読を6回実施し、その様子をビデオで撮影して分析した。朗読を通して回想がうながされ、自己表現の機会になり、進め方の留意点が明らかになった。
2. 生活者としての視点を広げた授業を目指して(2)	単著	2006年3月	長崎女子短期大学紀要 30	2. 高齢者への「食事」におけるインタビューをおこないまとめることを通して通して学生の自尊感情の変化をローゼンバーグの自尊感情の尺度についてアンケート前後で調査した。分析結果から有意差があった。学生の学びの共有においては進め方に課題があった。
3. 介護福祉施設実習の実際と課題	共著	2008年3月	長崎女子短期大学紀要 32	3. 3段階に分けての介護実習において、実習後の学びや感想を聞いたアンケートを分析し教員側の課題、学生の課題が明らかになった。
4. 構成的グループエンカウンターや高齢者の聞き取り調査が自尊感情に与える影響	単著	2009年3月	長崎女子短期大学紀要 33	4. 介護福祉士コースの学生に対して、構成的グループエンカウンター、高齢者への聞き取り調査を行わせている。実際にその直前と直後に自尊感情のアンケートを取り変化を見た。データ上有意な差が見られた。いずれもコミュニケーションで体験が自尊感情への①変化を与えたと考えられた。
5. 学生の総合力高めるための生活福祉専攻の取り組み	共著	2010年3月	長崎女子短期大学紀要 34	5. 平成21年度の介護福祉士養成施設におけるカリキュラム内容の変更に伴い、各科目での取り組みに小テストを取り入れ、一人ひとりの面接等も入れて成績のアップを図った。結果期末試験の生成が上がった。学生の面談においては十分な時間が取れなかったことが課題となった。
6. 潜在的有資格者養成事業実施報告	共著	2010年3月	長崎女子短期大学紀要 34	6. 平成21年度長崎県福祉・介護人材育成確保対策補助事業として実施した潜在的有資格者等養成事業の実施報告である。潜在的有資格者再就職支援研修参加者9名、福祉介護サービスチャレンジ教室参加者39名のアンケート内容をまとめ総括したもの。再就職までの確認はできなかったが、遠隔地での実施は学ぶ機会にはなった。
7. 介護福祉施設実習における実際と課題(2)	共著	2011年3月	長崎女子短期大学紀要 35	7. 介護実習1～5における介護技術の実施率と自信のなさを調査した。その結果実習でなかなか体験できない技術が明らかになり、その理由に実習指導者への事前の相談ができていない様子もわかった。また学生にとって、必ずしも技術の経験率と自信の程度には相関しないものもあった。実習後に学生がもっと技術を習得したいという意欲も高いことが分かった。
8. 「長崎県福祉・介護人材育成確保対策等事業」実施報告	共著	2012年3月	長崎女子短期大学紀要 36	8. 長崎県の福祉・人材育成確保対策事業として実施した福祉・介護サービス化レンジ教室参加者(参加69名)、キャリアアップ支援研修(参加者143名)を実施しその事業報告を行った内容である。
9. 根拠に基づいた生活支援技術の習得～事例を用いた実技試験を実施して	共著	2012年3月	長崎女子短期大学紀要 36	9. 根拠に基づいた生活支援技術の習得を目標に、実技試験の内容を事例に基づくものとし、アセスメントとさせて、11場面における各技術のマニュアルを作成させた。その結果、学生がより利用者理解に基づいた技術の展開を考えていることがわかった。

10. 介護実習における「医療行為でない介護行為」「医療的ケア（喀痰吸引・胃ろうや経管栄養等）」の学生の実施状況についての調査	共著	2013年3月	長崎女子短期大学紀要 37	10. 2014年度（平成26年）から介護福祉士養成施設では「医療的ケア」の授業がはじまる。学生の実習現場における「医行為ではない介護行為」「医療的ケア（喀痰吸引・胃ろうや経管栄養等）」の見学実施状況について調査した。その結果、学生が実習中に体験しやすい「医行為ではない介護行為」として「体温測定」があげられた。喀痰吸引や経管栄養が見学できた学生は30%以下だった。見学に際しては施設との連携が大切であることが分かった。
11「医療的ケア（喀痰吸引・経管栄養等）」の見学実習における課題について	共著	2014年3月	長崎女子短期大学紀要 38	11. 2014年度からはじまった「医療的ケア」授業において、事前に介護実習において喀痰吸引や経管栄養の見学を行わせるために必要な学生と受け入れ施設への配慮についてアンケート調査した。その結果、施設への申し入れを早めにおこない、学生が見学時に尊厳ある態度で臨めるような配慮が必要であることが分かった。見学が「個人の尊厳」「医療の倫理」「利用者や家族の気持ちの理解」につながる。
12. 地域交流活動を通しての学生の学びと課題	共著	2015年3月	長崎女子短期大学紀要 39	12. 地域貢献への自主的なとりくみによって、介護福祉専攻と生活総合ビジネス専攻の学生の学びと課題を明らかにするための研究である。二つの専攻の学生が地域包括ケアシステムについて授業の中で学びその後、高齢者施設への訪問を行い、レクリエーションによって交流を行うことで「人とのコミュニケーション力」や「チームで仕事をする力」「地域活動・地域福祉への興味」など5項目が高まった。活動をより主体的に活動とすること、学内での連携が課題となった。
13. 地域交流活動を通しての学生の学びと課題（2）	共著	2016年3月	長崎女子短期大学紀要 40	13. 地域交流活動を通して学生の学びと課題②ということとで、前回の課題となった、「学生がより主体的に活動できる」に向けて実践の場所を介護予防の地域のサロンの場として計画した。学生の学びを次の学年に伝えることも追加で行い、社会人基礎力へのリフレクションになった。今後はさらに学生のポートフォリオを意識した取り組みとする必要がある。
14. 地域交流活動を通しての学生の学びと課題（3）—介護予防自主グループへの案系と調査分析から	共著	2017年3月	長崎女子短期大学紀要 41	14. 学生が介護予防のサロン活動と交流することで、「社会人基礎力のスキルアップ」と「地域包括ケアシステムの理解を深める」における学びをえているが、今回はより地域貢献をするうえで7つの介護予防の団体の活動への満足度を上げているもの谷団体の悩みを明らかにする目的でアンケート調査を行った。満足度を上げていたものに「足腰を鍛え、転ばないように」おあげていた。「活動しての変化」があった。悩みとして「会員の増加」や「後継者」をあげていた。
15. 介護福祉士養成施設に在学する留学生の生活実態と支援のあり方に関する考察	共著	2022年3月	佐賀女子短期大学紀要 56	15. 2019年度入学の外国人留学生については、卒業時に実施したアンケート結果の分析から、海外から直接入学した学生については、入国前から多種多様な支援体制が必要であることが課題とあしてあげられた。
16介護福祉士養成施設に在学する留学生の生活実態と支援の在り方に関する考察(Ⅱ)	共著	2023年	佐賀女子短期大学紀要 57集第2号	本学地域みらい学科福祉とソーシャルケアコース2020年度入学の外国人留学生25名を対象にアンケート調査を実施し、得られたデータについて考察を行った。
（その他）				